

平成25年度 科学研究費助成事業（特別推進研究）
研究進捗評価 現地調査報告書

研究課題名	ラミダス化石等人類進化研究を中心としたマクロ形態研究の推進と基盤充実
研究代表者名 (所属・職)	諏訪 元（東京大学・総合研究博物館・教授）

【評価コメント】

本研究は、以下の四つの研究目的を定めた総合的な化石研究から、人類進化の実像に迫ろうとするものであり、以下のように研究は順調に進捗していると判断できる。

- (1) チョローラ地区の野外調査は順調に進められ、地層の年代推定から人類と類人猿の分岐が600万年前という従来の説をより古い時代に訂正できるというインパクトのある結果が期待できる。
- (2) コンソ地区の調査からは、動物化石の変遷を含む総合的な分析が進み、既に200万—80万年前の間の石器の変化についての論文が発表された。
- (3) ラミダス化石のスキャン情報による形態解析では、代表者らのラミダスの生活様式仮説を世界の学会で納得させるための研究（咀嚼器の機能、2足歩行と樹上性にかかわる足骨の機能、ナックル歩行について）が進行している。
- (4) 研究基盤も東京大学総合研究博物館で、骨学標本や遺体解剖標本を解析する体制が整いつつあり、現地のエチオピア博物館での共同研究体制を整え、卓上X線マイクロスキャナを運び込む準備を進めている。

また、今回の科研費で購入された高額な機器である、マルチスキャンCT装置、卓上X線マイクロスキャナ、マルチマテリアル3Dプリンターは、既に稼働して研究成果を上げている。特に、デジタル情報から3D模型を作成する3Dプリンターは、アナログ思考の検討ができる点で有効である。

なお、研究員の雇用については当初計画より遅れていたが、これは適切な人材が多くなかったためであったが、平成25年度当初までに必要な人材が確保できたので、研究遂行上問題はない。

本研究は地道な作業を積み上げていくプロセスにより成り立つが、代表者らは研究期間の範囲の中で研究目的が達成できるよう綿密な計画をたてており、極めて順調に進んでいると判断した。